

次期総合計画の策定に向けて

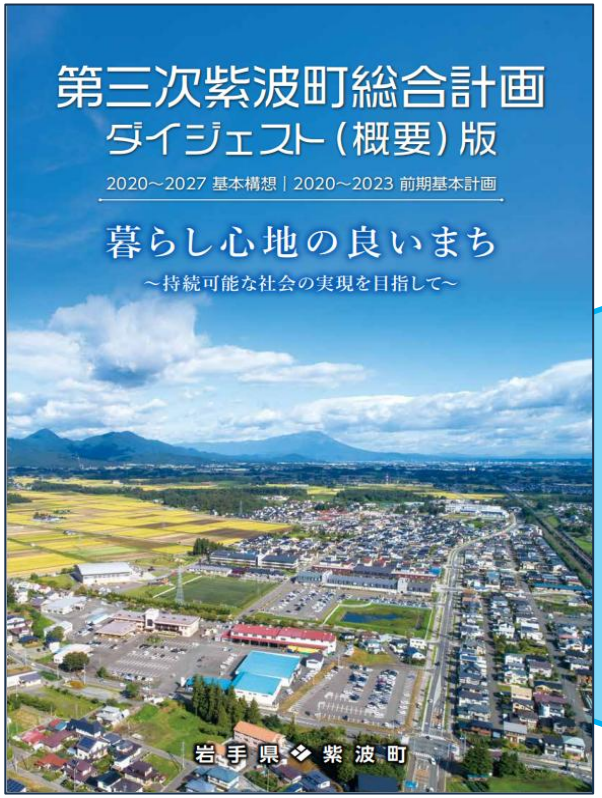
～紫波町総合計画市民ワークショップ資料～

企画総務部　企画課

総合計画の概要



総合計画とは



総合計画

- 基本構想
- 基本計画
- 実施計画

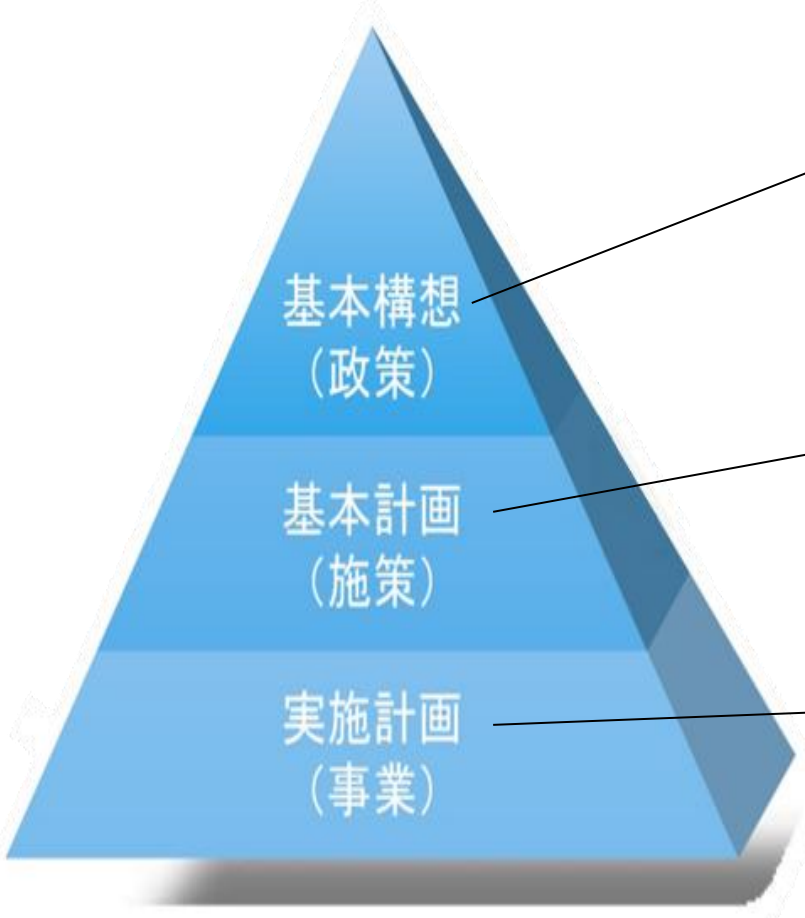
町が総合的・計画的な行政運営を
図っていくための「最上位計画」

総合計画とは

【基本構想の議決】
紫波町総合計画策定条例

【基本計画の議決】
紫波町議会の議決すべき事件を定める条例

- 町の政策を定める最上位の計画
- 基本構想、基本計画及び実施計画からなる
- 基本構想・基本計画は議会の議決を経て策定



● **基本構想（政策）**
【計画期間：8年間】
まちづくりの基本的な理念として、
町の将来像やあるべき姿、土地利用の
基本的な考えを示すもの

● **基本計画（施策）**
【計画期間：前期4年間／後期4年間】
基本構想の実現に向けた施策や取組の
方向性を示すもの

● **実施計画（事業）**
【計画期間：3年間（毎年見直し）】
基本計画を実行するための
具体的な取組を示すもの

紫波町市民参加条例

(市民参加の対象)

第6条　町の機関は、次の各号に掲げる事項(以下「対象事項」という。)について、市民参加を行わなければならない。

(1)　**町の基本構想**及び政策の基本方針その他基本的な事項を**定める計画の策定**又は変更

紫波町の総合計画の「基本構想」部分は市民参加で作成を進めます

紫波町が県内トップ
これは何のランキング？

1位　紫波町👑
2位　北上市
3位　金ケ崎町
4位　滝沢市
5位　矢巾町
6位　盛岡市
7位　花巻市
8位　奥州市
9位　八幡平市
10位　野田村

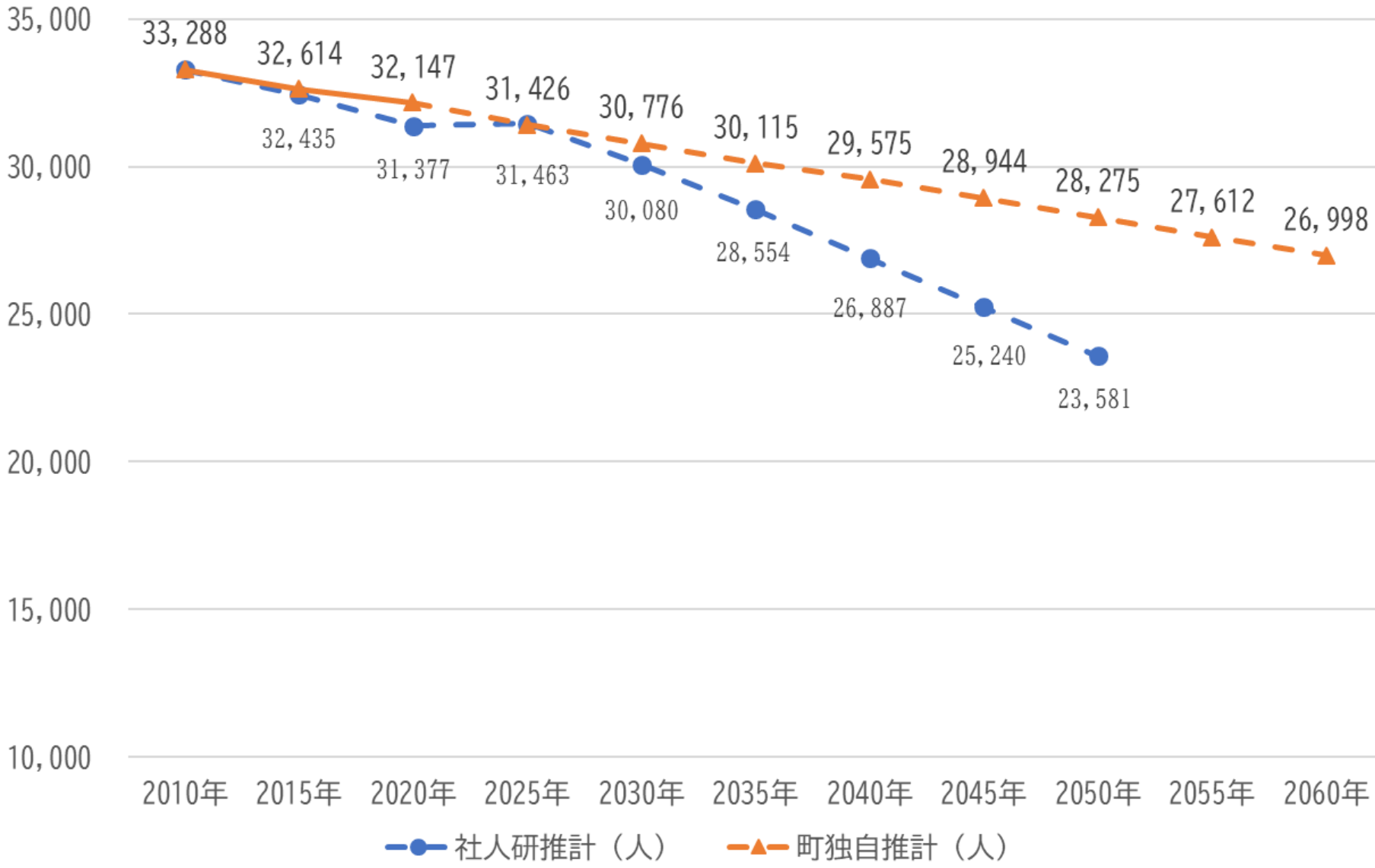
県内市町村の人口維持率
<2020→2025>

人口減少率が
県内で一番ゆるやか



1位	紫波町 👑	97.89%(-2.11%)
2位	北上市	97.65%(-2.35%)
3位	金ケ崎町	97.39%(-2.61%)
4位	滝沢市	96.69%(-3.31%)
5位	矢巾町	96.25%(-3.75%)
6位	盛岡市	96.17%(-3.83%)
7位	花巻市	93.65%(-6.35%)
8位	奥州市	92.00%(-8.00%)
9位	八幡平市	91.82%(-8.18%)
10位	野田村	91.79%(-8.21%)

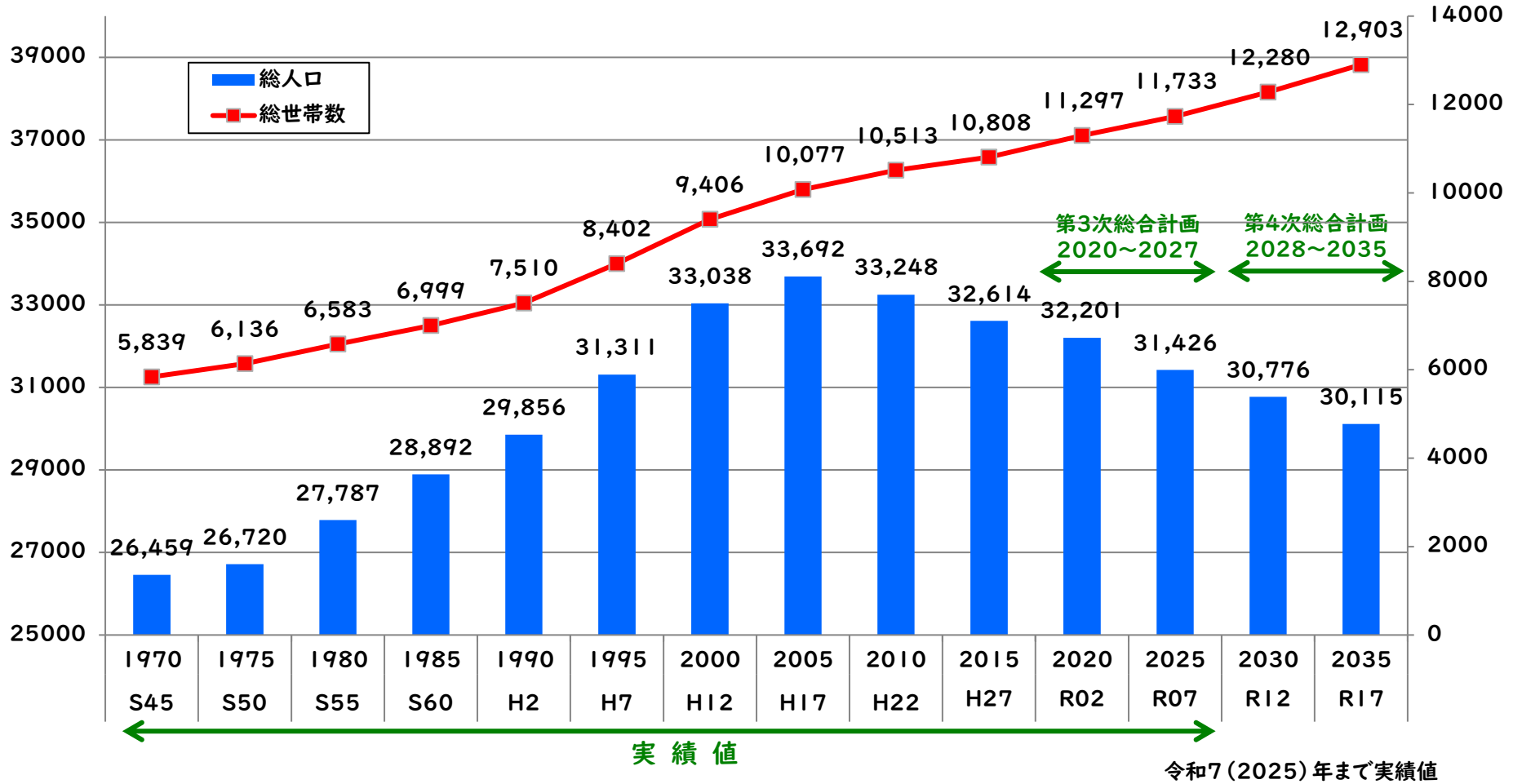
紫波町の人口ビジョン（将来人口推計）



総人口・総世帯数の推移と見通し

本町の人口は、平成17年の33,692人をピークに減少に転じており、推計によると令和17年には30,115人まで減少し、その後も減少傾向が続くものと見込まれます。

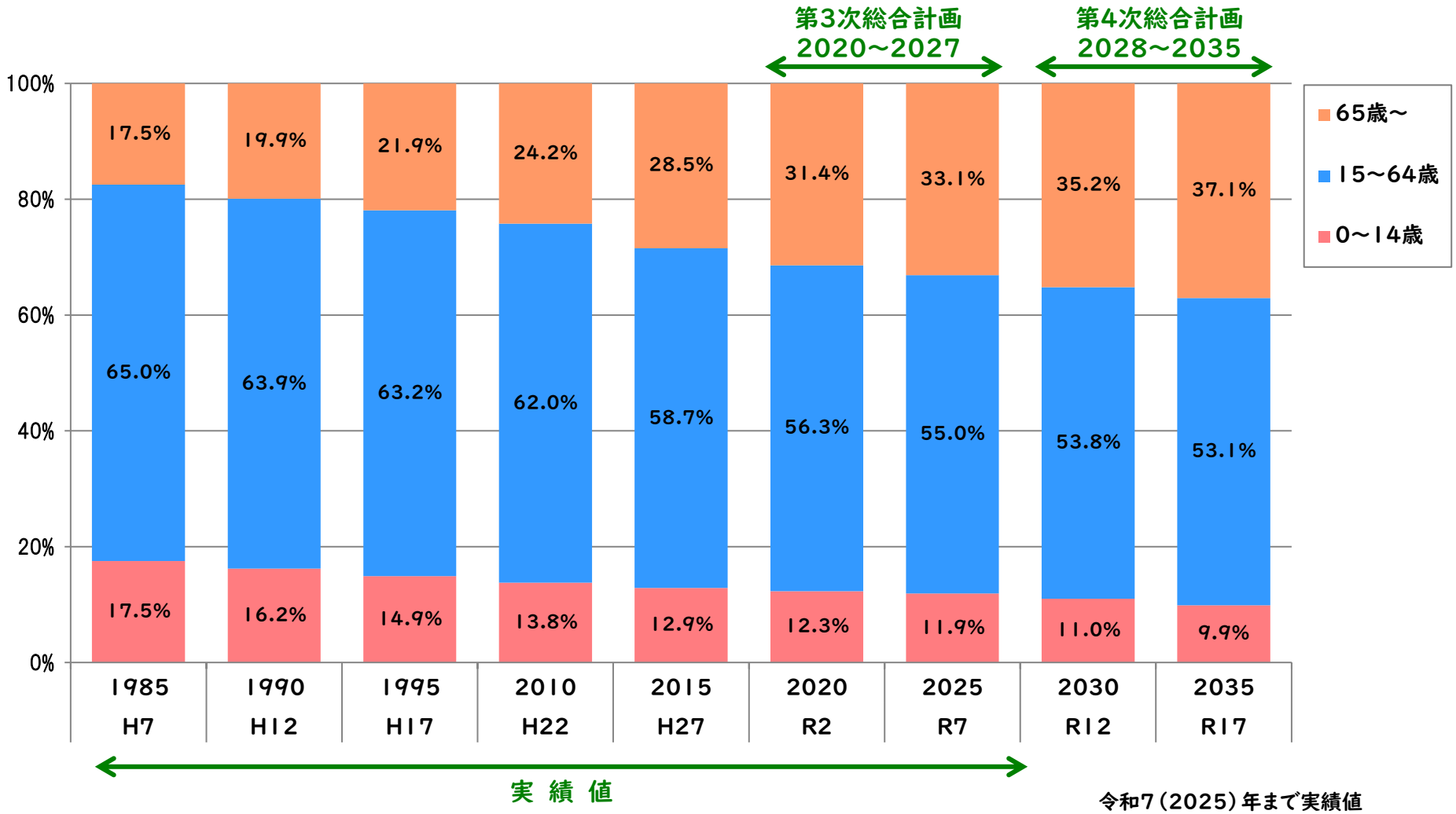
世帯数は、核家族化の進行などにより増加傾向にあり、令和7年の11,733世帯から、令和17年には12,903世帯になるものと見込まれます。



令和7(2025)年まで実績値
総務省 国勢調査(各年10月1日)より

人口フレームの推移と見通し

年齢3階層別人口割合を見ると、年を追うごとに年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳～64歳）の減少と高齢者人口（65歳以上）の増加が続いており、今後一層の少子高齢化が進行する見通しです。



令和7（2025）年まで実績値
総務省 国勢調査（各年10月1日）より

人口減少により起きる、まちの変化



・地域コミュニティの変化
・財源（税収）の減少
・職員数は減っていく
・地域の担い手不足
・道路や公共施設は老朽化
・行政サービスを維持できない
・行政だけでは解決できない地域課題の増加

持続可能な地域づくり

人口減少により様々な課題に直面しています

地域の暮らしを守るためには、地域の総力を結集し、
地域課題を解決する必要があります

そのためには、どのような町・地域になっていけば
良いのでしょうか？

答えはひとつではありません。
一緒に考えていきませんか。

総合計画
＝
「まちづくり」の羅針盤

まちづくり

👉 身近な居住環境を改善し、地域の魅力や活力を高めること
👉 住民の生活の質を高めるため、身近な居住環境に対して働きかける持続的な活動

まちづくりを進めるためには、「住民・地域・行政」がともに理想とする
まちの姿や取組の方向性を共有し、お互いに力を合せて進んでいくことが重要

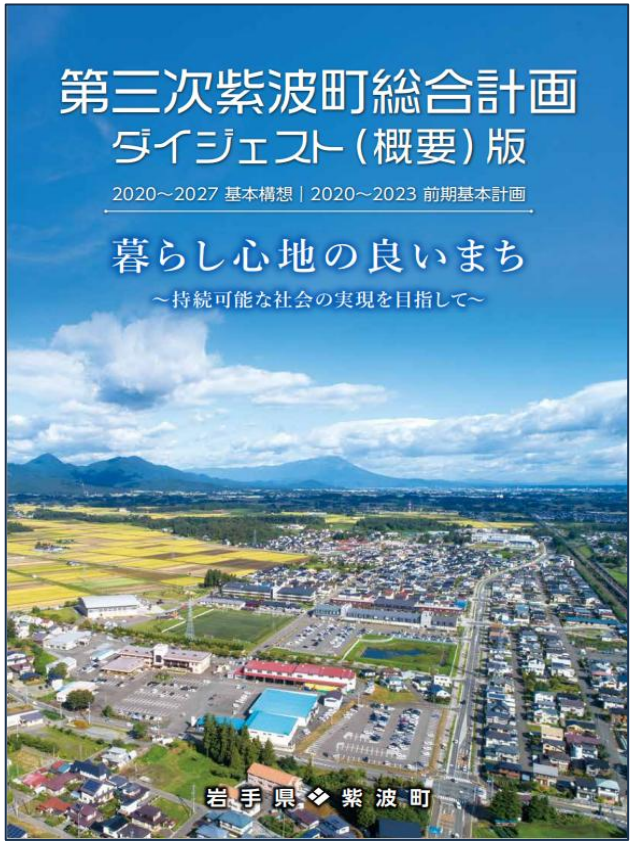
次期総合計画の策定に向けて



第三次紫波町総合計画（R2～R9）

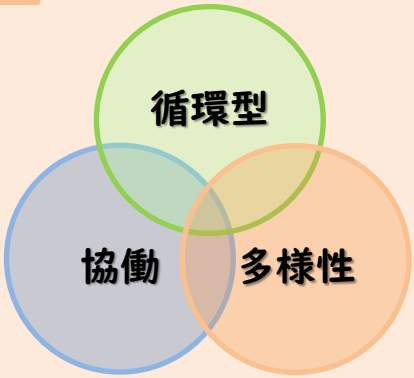
まちづくりの将来像

暮らし心地の良いまち



まちづくりの基本理念

- 循環型のまちづくり
- 協働のまちづくり
- 多様性あるまちづくり



重視する地域資源

【食】【スポーツ】【文化】

第三次総合計画（R2～R9） 体系図

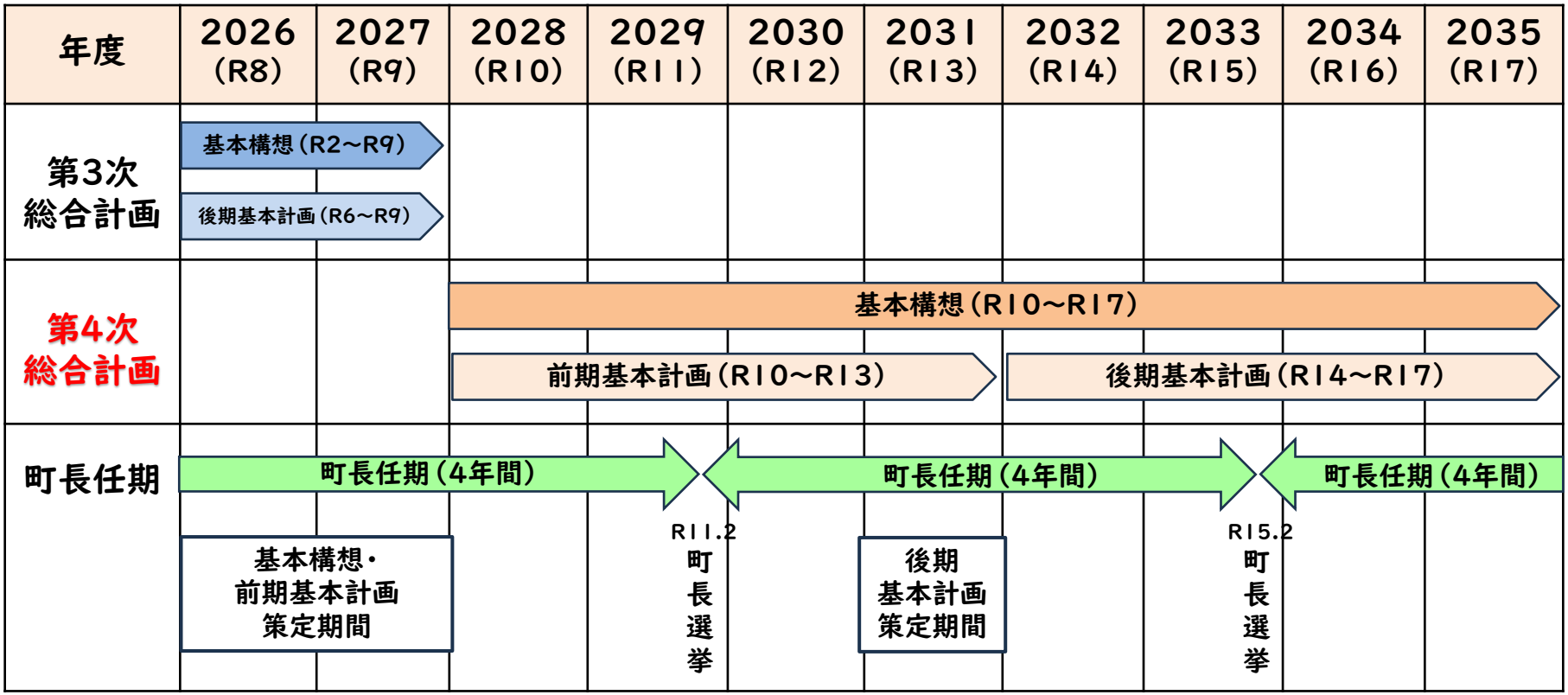
まちづくりの将来像

暮らし心地の良いまち

分野別の将来像

【健康・安心】	誰もがその人らしく健やかに暮らせるまち
【自然・産業】	豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち
【安全・快適】	自然と調和した安全で快適なまち
【子ども・教育・文化】	郷土を愛し未来を切り拓く人に満ちたまち
【自治・参加】	多様性とつながりのある暮らし心地の良いまち

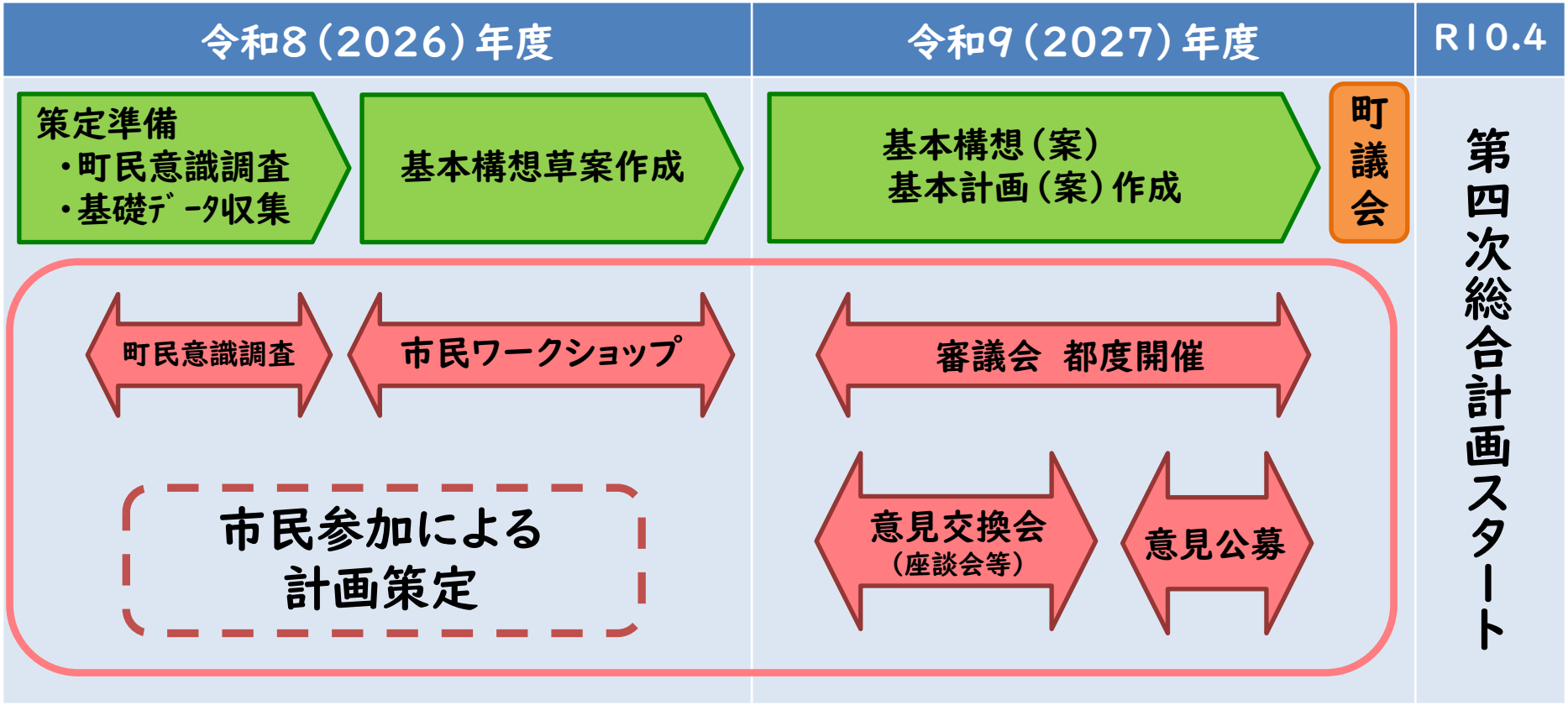
次期総合計画の計画期間



- 新たな総合計画の策定には2年（基本構想1年／基本計画1年）を要する
- 新たな総合計画の始期は、町長の政策が反映できるよう、町長選挙の時期から2年後となるように調整されている

令和10年度を始期とする次期総合計画について、令和8～9年度の2年間をかけて策定を進めていく

次期総合計画　策定スケジュール



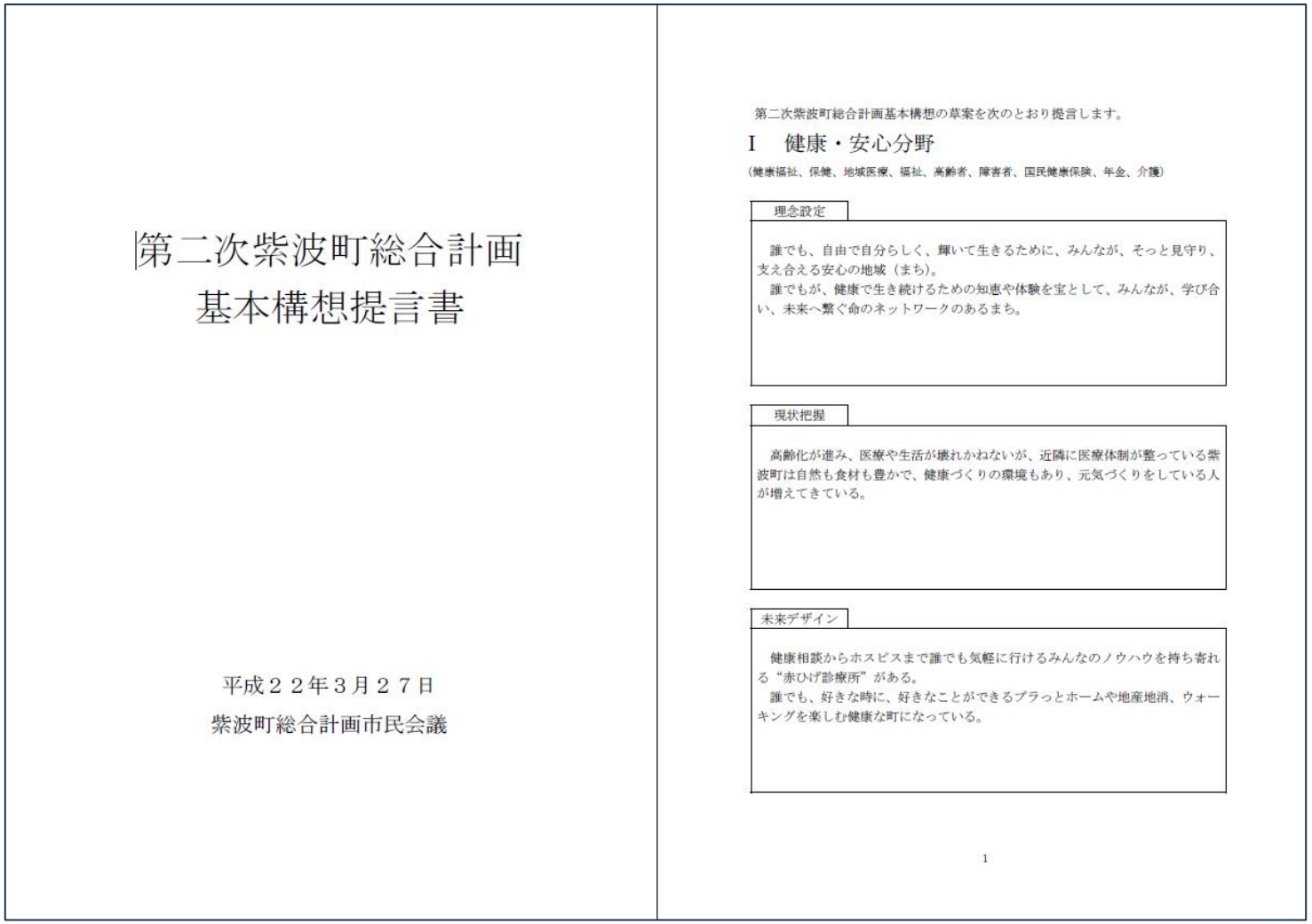
【令和8年度】

- 町民意識調査／まちづくりアンケート　R8.6～7月頃
- 市民ワークショップ（全7回予定）　R8.9～R9.3月頃

【令和9年度】

- 総合計画審議会（全7回予定）　R9.6～R10.2月頃
- 総合計画（原案）完成　R9.11月頃
- パブリックコメント　R9.12月頃
- 総合計画（最終案）完成　R10.2月頃
- 紫波町議会へ提案／策定完了　R10.3月頃

市民ワークショップの目的



第二次紫波町総合計画
基本構想提言書

平成２２年３月２７日
紫波町総合計画市民会議

第二次紫波町総合計画基本構想の草案を次のとおり提言します。

Ⅰ　健康・安心分野

（健康福祉、保健、地域医療、福祉、高齢者、障害者、国民健康保険、年金、介護）

理念設定

誰でも、自由で自分らしく、輝いて生きるために、みんなが、そっと見守り、支え合える安心の地域（まち）。
誰でもが、健康で生き続けるための知恵や体験を宝として、みんなが、学び合い、未来へ繋ぐ命のネットワークのあるまち。

現状把握

高齢化が進み、医療や生活が壊れかねないが、近隣に医療体制が整っている紫波町は自然も食材も豊かで、健康づくりの環境もあり、元気づくりをしている人が増えてきている。

未来デザイン

健康相談からホスピスまで誰でも気軽に行けるみんなのノウハウを持ち寄れる“赤ひげ診療所”がある。
誰でも、好きな時に、好きなことができるプラっとホームや地産地消、ウォーキングを楽しむ健康な町になっている。

1

「基本構想草案（政策提言書）」の完成がゴール

市民ワークショップで行うこと

「基本構想草案（政策提言書）」

分野ごと（5分野）に分かれ、以下3点をチームごとに作成

＜理念設定＞

まちの将来像（あるべき姿）を描く

＜現状把握＞

理念に照らし合わせて、好ましい現状と気になる
現状（課題）をピックアップし、まちの現在地を明確化

＜未来デザイン＞

進むべき方向性を見出す

市民ワークショップ開催日程・概要

- 市民WSは以下日程で8回の開催を予定しています。
- 開催時間は、全日程18:30～20:30となります。

回	開催予定日	場所	テーマ・概要（案）
第1回	9月29日（火）	会議室301～303	キックオフ・市民ワークショップの趣旨共有
第2回	10月29日（木）		市民が感じるまちの魅力・課題等の整理
第3回	11月26日（木）		分野別の「目指すまちの姿」の検討
第4回	12月22日（火）		「目指すまちの姿」から見た町の現状整理
第5回	1月14日（木）		分野別の将来像を描く（1） 【未来デザイン①／意見交換】
第6回	2月8日（月）	役場1F はつらつホール	分野別の将来像を描く（2） 【未来デザイン②／ブラッシュアップ】
第7回	3月11日（木）		将来像の実現に向けた役割整理＆ 市民提言の整理
第8回	3月30日（火）	情報交流館大スタジオ	成果報告会（プレゼン）

【市民WS】各グループが担当する分野領域

政策分野	分野領域
健康・安心 （生活部）	【健康】 母子保健、成人保健、健康づくり、感染症予防 【医療】 福祉・高齢者医療、国保、医療体制 【福祉】 地域福祉、障がい福祉、高齢者福祉、介護保険、生活支援
自然・産業 （産業部）	【環境】 環境、脱炭素 【農業】 農業経営、農畜産物、地産地消、農業生産、鳥獣被害対策 【商工業】 商工業支援、起業支援、企業誘致、特産品 【 食 】 食生活、食文化、食育　　【森林・林業】 森林保全 【観光交流】 観光、交流人口　　【雇用・就労】 雇用対策
安全・快適 （建設部）	【都市計画】 都市計画、市街地整備　【道路・河川】 道路、河川、雨水管理 【上下水道】 上水道、下水道　【防犯・防災】 交通安全、消防、防犯、防災 【都市生活基盤】 住宅、空き家対策、公園、公共交通
子ども・教育・文化 （教育部）	【保育・教育】 保育、幼児教育、学校教育、教育振興、教育支援、 教育環境、児童福祉 【子育て】 子育て支援 【生涯学習】 生涯学習、芸術・文化・歴史、スポーツ、社会参加
自治・参加 （企画総務部）	【自治】 住民自治　　【協働】 協働、市民参加、公民連携 【地域づくり】 市民活動支援、地区コミュニティ支援 【共生社会】 男女共同参画、国際交流 【情報】 地域デジタル、情報交流館、広聴・広報 【少子化・人口減少対策】出会い・結婚支援、移住定住、関係人口

市民WS参加者（一般市民・町職員）の役割

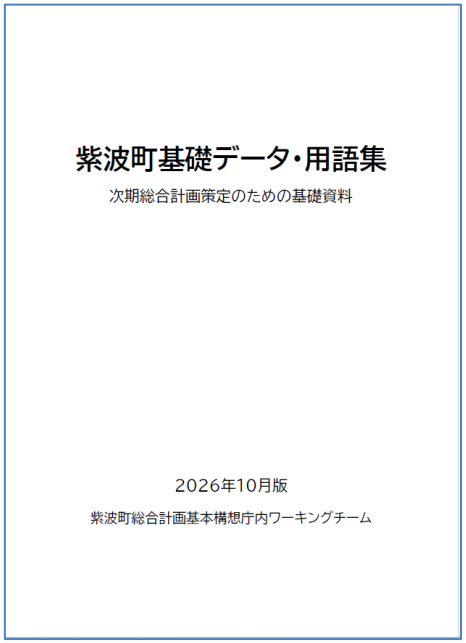
- 市民ワークショップ委員の皆さまには、日頃の暮らしや地域での経験をもとに意見やアイデアを出していただき、基本構想草案作成に向けて、まちの将来像や取組の方向性について考えていただきます
- 町職員は、市民ワークショップ委員と議論しながら、町の現状や課題、施策等について必要な情報を提供するとともに、ファシリテーターや記録係など、グループワークの進行を補助する役割を担います

	市民WS委員	町職員
基本的な役割	市民の立場・暮らしの視点から考え、意見を出す	行政の立場・専門的な視点から考え、議論に必要な情報を提供する
議論への参加	他の参加者と意見を交わし、一緒に考える	市民と議論しながら、必要な情報や行政の視点を加える
グループワーク	自由に意見を出し、他者の意見を聞きながら議論する	議論に参加しつつ、ファシリテーター・記録係として進行を補助する
目指すこと	まちの将来について市民の視点から考える	市民の議論を支え、基本構想草案の検討につなげる

基礎資料の役割

基礎データ・用語集

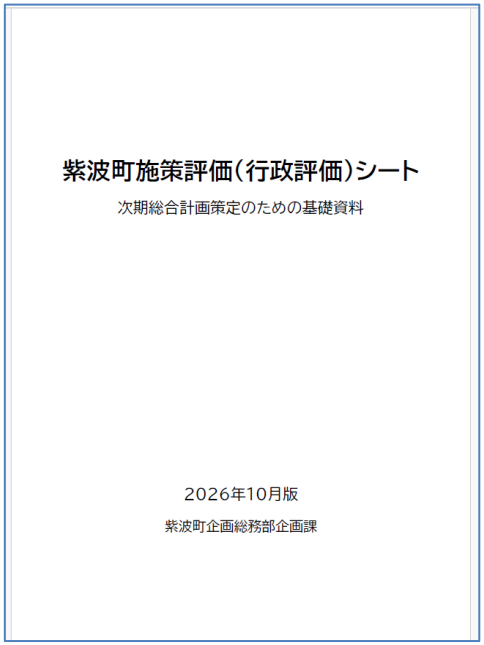
町の現状や基礎的な情報を知るための資料



町の現状を「知る」

施策評価（行政評価）シート

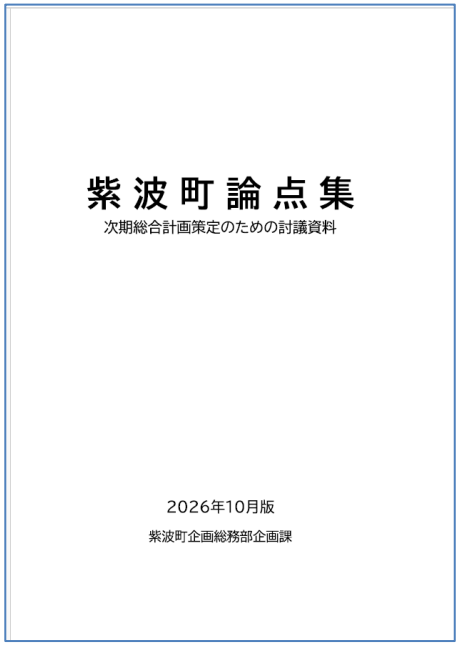
町のこれまでの取組や成果、課題を振り返るための資料



これまでを「振り返る」

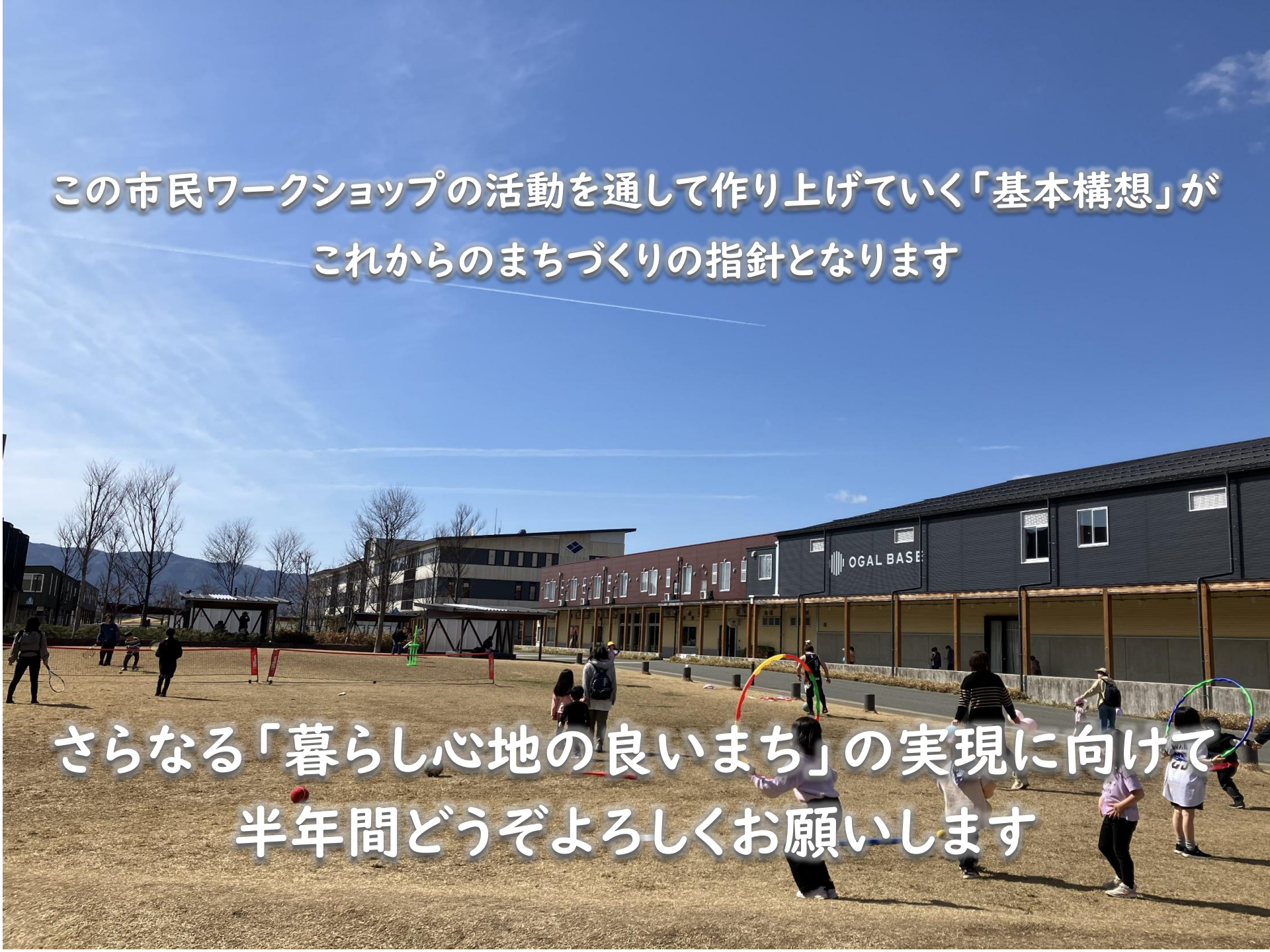
論点集

これからのまちづくりを考える際の主な論点を整理した資料



これからを「考える」

市民ワークショップにおける議論の土台（討議資料）としてご活用ください


この市民ワークショップの活動を通して作り上げていく「基本構想」が
これからのまちづくりの指針となります
さらなる「暮らし心地の良いまち」の実現に向けて
半年間どうぞよろしくお願いします